

(地独)青森県産業技術センター水産総合研究所
ほたて貝部、漁場環境部
青森県 東青地方水産事務所
下北地方水産事務所
水産振興課
青森市水産振興センター

ホタテガイ採苗速報

水温が26℃を超える日は、稚貝採取をやめましょう

1 海況

7月27日時点の陸奥湾の表層（1m層）の日平均水温は、図1、2のとおりで、一部海域で26℃を超えました（各ブイの詳細は、海ナビ@あおもりを参照）。

2 稚貝採取の注意点

稚貝は、水温が26℃を超えるとへい死する危険性が高まります（図3）。稚貝採取を現在行っている地区では、海水温を計ったり、海況自動観測ブイならびに水温自動観測ブイの水温（下記URL、QRコード）を参考にしながら26℃を超す日は稚貝採取をしないでください。

また、水温は今後さらに上昇することが予想されるので、稚貝採取をした施設を水温の低い下層に沈めたまま動かさないようにしましょう。さらに、体力の消耗を抑えるために、玉付け、掃除、へい死確認などの作業を行わないようにしましょう。

なお、26℃以下の日に稚貝採取を行う場合には次ページの点に気を付けてください。

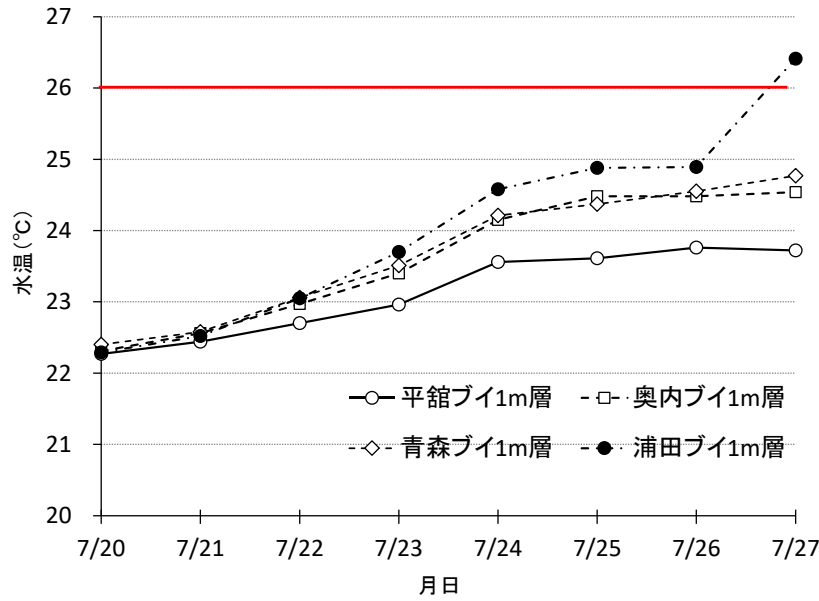


図1 海況自動観測ブイ（1m層）と水温観測ブイ（1m層）での日平均水温の変化（西湾）

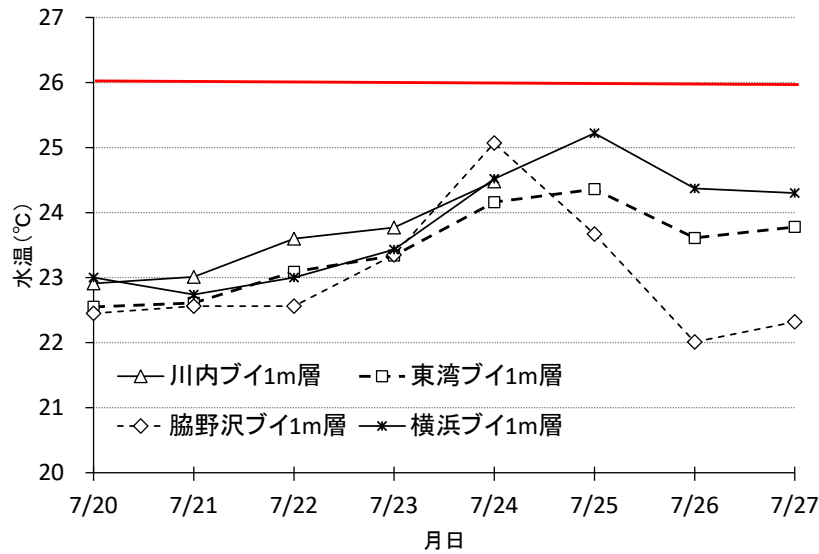
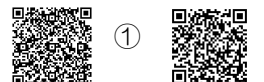


図2 海況自動観測ブイ（1m層）と水温観測ブイ（1m層）での日平均水温の変化（東湾）



図3 稚貝の成長と生残率に与える水温の影響



(26℃以下の日に稚貝採取を行う場合)

(1) 稚貝を融通しましょう。

○付着数の多い地区では、付着数の少ない地区へ稚貝の融通に協力してください。

(2) 稚貝を大切に扱きましょう。

○作業は早朝の涼しい時間帯に行い、タイヤや水槽の水温が上がらないように、シート等で直射日光を防ぎましょう。

○タイヤや水槽の水は出来るだけ深い水深帯から汲み上げ、かけ流しにしましょう。

20分でタイヤの海水の酸素がなくなるので、かけ流しにできない人は、頻繁に海水を交換してください。かけ流しまたは海水の交換がないと水温上昇および酸欠で稚貝が死んだり、成長不良になることがあります。

○稚貝は、海水温が26℃を超えるとへい死の危険性が高くなります。海水温を計ったり、海況自動観測ブイならびに水温自動観測ブイの水温（表面URL、QRコード）を参考にしながら26℃を超す日は稚貝採取をしないでください。

○稚貝は乾燥にも弱いので、手早く作業を行いましょ。

○採取後の稚貝は水温の低い下層へ沈めて、稚貝を安静にさせましょう。

(3) 適正保有数、適正収容数を守りましょう。

○稚貝採取では決められた保有数を守りましょう。

○パールネット1段当たりの収容数を適正にしましょう。分散が遅れると異常貝が多くなります。分散が遅れる可能性があるパールネットには、稚貝を少なめ（50～100枚/段）に入れましょう。

(4) 来年に向けて

○高水温や強い潮流の影響を避け、早い時期に稚貝採取するために、目合い1分、1分5厘、1分8厘など、2分未満のネットの保有率を高めましょう。